

ドイツ学校教育におけるグリムのメルヒェン と現代伝説について

金城ハウプトマン朱美

はじめに

200年前にヤーコブ・グリム (Jacob Grimm) とヴィルヘルム・グリム (Wilhelm Grimm) により『子どもと家庭のためのメルヒェン集』 (*Kinder- und Hausmärchen* 以下 KHM) が編纂されてから現在に至るまで、ドイツの学校教育においてグリムのメルヒェンが様々な教科で活用されている。メルヒェンの文体面に注目した場合、ハインツ・レレケ (Heinz Rölleke) などの研究により明らかになっているように、文学的価値の高い文章に仕上げられた点が評価され、ドイツ語学習に利用されてきた。この他メルヒェンの教育的価値についてはメルヒェン教授法 (*Märchendidaktik*) の分野で多数の先行研究があり、肯定的な意見ばかりではなく、オットー・F・グメーリン (Otto F. Gmelin) が主張したように「悪いものはメルヒェンに起因する」¹ といった否定的な意見も存在する。

グリム兄弟がメルヒェンや伝説を書承化し、さらに近代化の影響を受け、これらの話は口伝されなくなっていったが、その他のジャンルの話、日常の出来事 (*Alltägliche Erzählungen*)、噂話、ヴィッツ (*Witz*)、現代の語りである現代伝説 (*moderne Sagen*) は、主に口頭で語られ、またインターネットや電話など電子機器を介して語られ伝播していくので伝播速度も速い。インターネットによる文芸を、口承文藝研究家の竹原

1 Gmelin, F. Otto: *Böses kommt aus Märchen*. In: *Die Grundschule*. 1975. H. 3, S. 125-131.

威滋が「電網文芸」²と名付けており、その代表に現代伝説³が挙げられる。ドイツの現代伝説として、ロルフ・W・プレートニヒにより（Rolf W. Brednich）1990年から2004年までに編集された5巻からなる現代伝説集が、若い世代を除いて広く知られている⁴。

本稿は、これまでのメルヒェン教授法における先行研究を参考にし、主に「ドイツ語教材としてのグリムのメルヒェン」の歴史を辿ることにより、グリム童話の教材としての受容についての流れを把握することを目的とする⁵。さらに、現代伝説が、ドイツ語教材等に1992年以降、利用されている点にも注目し、この二つの対照的な民間伝承（Volkserzählungen）がドイツの学校教育でどのように利用されてきたのかを纏めてみる。

2 竹原威滋『グリム童話と近代メルヘン』三弥井書店、2009年、7-9ページ参照。

3 現代伝説の詳細については付録を参照。

4 ロルフ・ヴィルヘルム・プレートニヒ（池田香代子・真田健司訳）『悪魔のほくろ—ヨーロッパの現代伝説』、白水社、2003年（初版1992年）Brednich, Rolf W.: *Die Spinne in der Yucca-Palme. Sagenhafte Geschichten von heute*. München: Deutscher Taschenbuch Verlag 1995 (1. Auf. 1990). ロルフ・ヴィルヘルム・プレートニヒ（池田香代子・鈴木仁子訳）『ジャンボジェットのエズミー—ヨーロッパの現代伝説』、白水社、1992年。（Brednich, Rolf W.: *Die Maus im Jumbo-Jet. Neue sagenhafte Geschichten von heute*. München: Beck 1998. Brednich, Rolf W.: *Das Huhn mit dem Gipsbein. Neueste sagenhafte Geschichten von heute*. München: Beck 1996. Ders.: *Die Ratte am Strohalm. Allerneueste sagenhafte Geschichten von heute*. München: Beck 1996. Ders.: *Pinguine in Rückenlage. Brandneue sagenhafte Geschichten von heute*. München: Beck 2004.

5 旧東ドイツではメルヒェンが積極的にドイツ語の授業に取り入れられ、人格教育に用いられてきた。詳細は以下参照。Schulz, Gudrun: “Hinter den Bergen wohnen halt auch noch Menschen.” Märchen im Deutschunterricht der SBZ / DDR. In: Jesch, Tatjana (Hg.): *Märchen in der Geschichte und Gegenwart des Deutschunterrichts. Didaktische Annäherungen an eine Gattung*. Frankfurt am Main: Lang 2003, S. 89-123.

1. 学校教育におけるグリムのメルヒェン

1800年初頭のドイツは、数々の小国家が集まり統一国家が形成されていなかったが、フランス革命後、人々がナポレオンに支配されたことに抵抗感を抱き愛国心が強まり「古きよき時代」への憧れの念がつのってきた。このような時代背景のもとに1812 / 1815年にKHMが出版され、教育的な効果が望まれた。一部のメルヒェンが教育学者ハインリッヒ・デイトマー（Heinrich Dittmar）により精選され、読本として『少年が散歩する森』（*Der Knaben Lustwald*）が1821年に出版された⁶。その後、ウルリケ・バステイアン（Ulrike Bastian）の研究によると、グリム童話の『小さな版』（*Kleine Ausgabe*）が当時読本として利用されていたことが判明し⁷、グリム兄弟自らも1825年に読本を作成していたと解釈できる。当時の風潮により「教示的且つ道徳的な利用」がメルヒェンに求められ、1861年にはハインリヒ・ラーヴェ（Heinrich Rave）とハインリヒ・シュレット（Heinrich Schlette）が『ドイツ語読本』（*Deutsches Lesebuch*）を出版し、「ファンタジーを害するメルヒェンではなく、ドイツ国民の内面精神から湧き出たメルヒェン、すなわちグリムのメルヒェン」を読書することを推奨した⁸。そして読み、書き、計算、博物の授業などを総称したいわゆる愛国心授業（*Gesinnungsunterricht*）にメルヒェンが19世紀の末まで用いられ⁹、教師用教科書手引書がメルヒェン教育上重要な役割を果たしてきた。ライプチヒ出身の教育学者であり哲学者

6 Vgl. Fischer, Helmut: "Nach den Brüdern Grimm". *Märchen der Brüder Grimm im didaktischen Gebrauch*. In: Wardetzky 1997a, S. 109-137, hier 110. Franz, Kurt: "Sagen lassen sich die Menschen nichts, aber erzählen kann man ihnen alles" *Das Volksmärchen als Erziehungs- und Bildungsmedium vom 19. Jahrhundert bis in die Gegenwart*. In: Franz 2003, S. 72-102, hier 73.

7 Vgl. Bastian, Ulrike: *Die Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm in der literaturpädagogischen Diskussion des 19. und 20. Jahrhunderts*. Frankfurt am Main: Harg und Herchen 1981 (Studien zur Kinder- und Jugendmedien-Forschung 8), S. 40.

8 Vgl. Rave, Heiner[ich] / Schlette, Heiner[ich]: *Deutsches Lesebuch*. Hannover: Hahn'sche Hofbuchhandlung 1861, S. V.

9 フランツ 2003年 81ページ。

であったトゥイスコン・ツイラー (Tuiskon Ziller) は、ヨーハン・フリードリヒ・ヘルバルト (Johann Friedrich Herbart) の四段階教授法 (明瞭・連合・系統・方法) に基づき、教訓的な傾向の強いグリムのメルヒェン12話 (KHM153「星の銀貨」など) を子どもの人格形成に役立つ読み物とし、20世紀初頭まで教育界に多大な影響を与えた¹⁰。オットー・ヴィルマン (Otto Willmann) はグリムのメルヒェンを「本物の青少年用読み物」と称賛し、ドイツ語運用力向上に効果があるだけでなく、示唆に富んだ読み物とした。フリードリヒ・ポラク (Friedrich Pollak) は、1890年代から始まり当時主流になりつつあった芸術教育運動と関連して、メルヒェンを芸術作品とみなし芸術鑑賞に役立てようとする。一方ではメルヒェンの教育効果は肯定されただけでなく、メルヒェンに内在する否定的な作用、すなわちメルヒェンから得るファンタジーの危険性について19世紀中頃からすでに論じ始められていた。

20世紀の転換期には、読本の質向上が唱えられ始め、子どもが楽しめる読本が求められた。1905年にはシュマルカーデン女子学校校長のマックス・トロル (Max Troll) がヘルバルト教育後援会に初等教育改善案の提案を委託された。生徒の教育を向上させるには、道徳心を強化し、「中心的な学習素材は故郷における根源にあるもの」に見出した。そして道徳教育上価値があり、言葉の上で子どもに馴染みのあるものが薦められた。1925年までに13回版を重ねた『初等教育の一年生』 (*Das erste Schuljahr in der Grundschule. Theorie und Praxis für die Elementarklasse der Einheitsschule als Erziehungs- und Arbeitsschule*) を1907年に出版し、KHM 5「狼と七匹の子ヤギ」を教材として取り上げ、授業方法を紹介している¹¹。

1907年にハインリヒ・ヴォルガスト (Heinrich Wolgast) が、KHM は世界文学に値し、子どもの精神的栄養であると賛辞した。また、メルヒェンを読むと文学教育上望ましい影響を与え、文芸作品を自ら体験でき

10 フィッシャー 1997年 113ページ参照。Vgl.: Geister, Oliver: *Kleine Pädagogik des Märchens. Begriff-Geschichte-Ideen für Erziehung und Unterricht*. 2. unveränderte Auflage. Baltmannsweiler: Schneider. 2011, S. 51-52.

11 フィッシャー 1997年 114-117ページ参照。

楽しめると論じた¹²。

ヘルムート・フィッシャー (Helmut Fischer) によると、この頃から国家教育が目立ち始め、民衆文学が国粹文化という形をとり再生したとされる。ゲルマン人種の生きた本能を起源にしている民衆文学は倫理的、芸術的かつ形式的で文化的基礎に確固として基づくことに努め、人種感情のルネッサンスを促したとされる。こうしてメルヒェンはイデオロギー議論に巻き込まれていき、「プロレタリア社会主義的メルヒェンは、階級を意識した教育に有益であったであろう」とベルント・ドレ＝ヴァインカウフ (Bernd Dolle-Weinkauff) の主張をフィッシャーが紹介している¹³。

ルドルフ・シュタイナー (Rudolf Steiner) が人智学を確立し、メルヒェンを宇宙解釈の中心メディアとしたのもこの頃であった。シュタイナーのヴァルドルフ教育では、メルヒェンは4歳から9歳は人格形成上重要な役割を果たす時期とされる。幼稚園ではメルヒェンを聴いてから午前中のプログラムが終了し、小学校1年では帰宅前にメルヒェンを聴いてから一日が締めくくられる。また小学校2、3年になると、メルヒェンを通じて言葉の世界の豊かさを体験することが目的になり、寓話や聖者伝、創造神話などが授業に取り入れられる。10歳から15歳の生徒には地理や郷土授業、植物・動物・人間学、物理、化学の授業でメルヒェンが応用され、16歳つまり10年生はメルヒェンや神話で表面化している内容を文学モチーフとして扱い、このモチーフを用いて、まさに思春期の果敢な年齢層が抱いている新しい自分の内面を自ずと意識し、それを絵画に表現し内に秘めている事柄を表面化させようと試みている¹⁴。

第一次世界大戦後から子どもの自立性が重要視されてくることに伴い、文芸作品としてメルヒェンが注目された。メルヒェンを自ら再話できる

12 同掲書 118ページ参照。

13 同掲書 111ページ参照。

14 Vgl. Esterl, Dietrich: *Was erziehen die Märchen in Kind? Die Bedeutung der Märchen in der Waldolfpädagogik*. In: Wardetzky 1997a, S. 179-187, hiers 179-183. Kohli, Angelika: *Das Märchen in der Waldolfpädagogik*. In: Dinges, Ottilie / Born, Monika / Janning, Jürgen (Hg.): *Märchen in Erziehung und Unterricht*. Kassel: Erich Röth 1986, S. 194-205.

ことや、メルヒェンを美的で芸術的な産物として体験することが目標にされたため、道徳教育における利用は消極的になる¹⁵。クルト・フランツ (Kurt Franz) によると1911年から1965年までの間にKHM 関連本(全メルヒェンを収録したもの、一部だけ出版されたもの、また一話のみ出版されたもの)の出版数が1250冊にも上ることから、この間にメルヒェンが子どもの読み物として定着したと解釈している¹⁶。

ヨーゼフ・プレステル (Josef Prestel) は、最初1932年にはメルヒェンが民主主義的信仰を持つと警鐘を鳴らしていたが、1938年にはKHMがドイツ再興の際、役に立つ礎石であるとみなし、従順さ、忠誠心、忍耐、毅然さ、総統を信用することなど民族の中心財産であるとし¹⁷、結果ナチスの人種主義教育に加担した。また1910年にセヴェリン・リュットガス (Severin Rüttgas) はメルヒェンを国民文学と呼び、また「古代民衆文学のルネッサンス」と名付け、労働学校向けにメルヒェンを書き換え、ナチス時代には国民学校用読本を作成していた¹⁸。フィッシャーはナチス時代のメルヒェン教育について、以下のように述べている。

ナチス時代には、一個人の行為、英雄性、忠誠心、総統崇拝といった永遠に有効であるドイツの真実がメルヒェンに見出された。神話に魂を吹き込み自分の出自に対する関心を早い時期に呼び起こすために、大衆的な意味における教育的効果がメルヒェンに期待されていた¹⁹。

第二次世界大戦後に、一時期ではあるが旧西ドイツでは連合国によるメルヒェン検閲が実施され、KHM15「ヘンゼルとグレーテル」の魔女が釜の中で焼かれる場面を教科書に掲載することが禁止された²⁰。そし

15 フィッシャー 1997年 118ページ参照。

16 フランツ 2003年 90ページ。

17 フィッシャー 1997年 119ページ。

18 ガイスナー 2011年 59ページ参照。

19 同掲書 112ページ。

20 フランツ 2003年 79ページ。

て教育関係者や一般人によりメルヒェンが批判されていたにもかかわらず、教科書からメルヒェンが消えることなく、戦前のように経験教育学的観点から学校教育で用いられた。しかし、モニカ・ボルン (Monika Born) によると、戦後メルヒェン教授法について言及され始めたのは、1968年頃になってからである²¹。この時期にメルヒェンの残酷性が問題にされたが、グリム・メルヒェンの文芸性は批判されなかったとフィッシャーは述べている²²。1970年代にはメルヒェンの批判的読解、(Kritisches Lesen)、1980年にはメルヒェンの批判的且つ創造的読解 (Kreatives Lesen) が要求され、1990年代にはドイツ語授業全般で創造性が重視された²³。

深層心理学セラピーにおけるメルヒェンの有効性が明らかになり、メルヒェンの必要性を説いたブルーノ・ベッテルハイム (Bruno Bettelheim) 著『昔話の魔力』(*Kinder brauchen Märchen*) の独訳が1977年に出版され反響を呼んだ。しかしながら、それでも全てのメルヒェンを子どもに読ませたくないという根強い意見もあり、例えば、KHM117「わがままな子ども」(Das eigensinnige Kind) といった子どもを抑圧させるメルヒェンは、体罰等子どもに危害を与えることが躰けと理解されている「有害教育」(Schwarze Pädagogik) に適しているという理由で子どもに不適切なメルヒェンだとされる。一方、子どもに憧れの念を抱かせたり、幸福感を味あわせるために是非読んで欲しいというメルヒェンがあり²⁴、メルヒェンと言った場合、全てのメルヒェンが好意的に受け入れられないことが分かる。

21 Born, Monika: *Kommt Böses aus Märchen – auch heute noch? Ideologiekritik der 70er Jahre und ihre Auswirkungen auf die westdeutsche Märchendidaktik*. In: Jesch, Tatjana (Hg.): *Märchen in der Geschichte und Gegenwart des Deutschunterrichts. Didaktische Annäherungen an eine Gattung*. Frankfurt am Main: Lang 2003, S. 53-87, hier 62.

22 フィッシャー 1997年 112ページ参照。

23 Born, Monika: *Kognitiv oder kreativ? - Märchendidaktische Konzeption mit methodischen Konsequenzen*. In: Wardetzky 1997a, S. 66-86, hier S. 71-79. 2000年以降のメルヒェン教授法について詳述した研究資料は見つからなかった。

24 ガイスター 54ページ。

20世紀の後半には、映画、テレビ、レコードやカセットテープ、CDといった様々なメディアでメルヒェンが消費され、また、演劇、絵本、コミック、パロディーや広告²⁵と広範囲にメルヒェンやそのモチーフが利用されてきた。メルヒェンパロディーを教材として使用する際に、書き変えられた箇所が議論されるのではなく、イデオロギー²⁶批判ならびに批判的文芸教授法の観点から見て、小学校低中学年にメルヒェンから距離を置くべきかどうかが問題にされた。ボルン（1997）によると、話の内容や対象学年などにより理解度が異なること、そして何よりも大人の視点でパロディー化されたメルヒェンを子どもが聞くことを疑問視されており、子どもに大人の解釈を押し付けることは、子どもの解釈を阻止しかねないので憂慮すべきであるとされる²⁷。また、グードルン・シュルツ（Gudrun Schulz）は、メルヒェンパロディーを教材として使用する前に、オリジナルのメルヒェンを子どもが知っておくことが前提条件としている²⁸。

21世紀に入ってもメルヒェンはメディアで利用され、学校教育でも活用されている。バイエルン州やザクセン＝アンハルト州のドイツ語カリキュラムでメルヒェンが読本に指定されていることをはじめ、教案（Lehrplan）に指示されていなくてもメルヒェンを使ったオリジナル教材がドイツ語学習に役立てられている²⁹。しかしメルヒェンと言っても『グリム童話』とは限らない。

ベルリンでのドイツ語教育を例に挙げると、小学校低学年から「想像力豊かな作文」（Kreatives Schreiben）を小学校高学年からは「批判的読

25 Vgl. Mieder, Wolfgang (Hg.): *Arbeitstexte für den Unterricht. Grimms Märchenmodern. Prosa, Gedichte, Karikaturen. Für die Sekundarstufe.* Stuttgart: Reclam 1995 (Universal-Bibliothek Nr. 9554).

26 ボルンによると、“イデオロギー的な” テキストとは歴史教授の物質主義理論であり、労働者階級への興味を示すものとされる。ボルン 2003年 56ページ。

27 ボルン 1997年 73ページ。

28 Schulz, Gudrun: *Geschichten lesen, erzählen, schreiben, gestalten. Kinderliteratur als Anreger für einen produktiven Unterricht.* Berlin: Cornelsen 2000, S. 65.

29 インターネットサイト <http://www.4teachers.de> (2011年12月2日) では約260のメルヒェンをテーマにした教材が紹介されており、無料ダウンロード可。

解」力養成が2011年度の教案³⁰に盛り込まれている。メルヒェンなど様々なテキスト種が読本に挙げられ、メルヒェンを教養の一つと位置づけているのが特徴的である。ドイツでは未就学児童にドイツ語の読み書きが指導されず、入学後初めてアルファベットを学び、読み書きの練習をする。そもそも作文力自体ついていない低学年の生徒にこのような能力を求めることに問題があると拙者は考える。

メルヒェンの用途は、概して年々多様化する傾向にあり、プロジェクト週間にメルヒェンをテーマに図工の展示会や学芸会が行われたりしている。メルヒェンが教育的か否かについて、とりわけその効果は実証しがたいとヴェルナー・ツィーゼニス (Werner Ziesenis) が言及しているが³¹、メルヒェンをテーマにした授業等の実践報告が僅少ではあるが研究発表されている。例を挙げると、ブリギッタ・シーダー (Brigitta Schieder) は、5歳の幼稚園児から14歳のギムナジウム生に KHM169「森の家」とノルウェーの民話「もじゃもじゃの毛が頭巾からたれている子」(Zottelhaube) を用いて合計400人の児童とクラス別でプロジェクトを行ったり³²、コンスタンツェ・ローラ (Constanze Rora) は外国人児童が多数を占めるベルリンの小学校3年生の1クラスと「白雪姫」をミュージカル化したことについて発表している³³。

30 2011/2012年度に使用されている教案参照。Rahmenlehrplan Deutsch (http://www.berlin.de/imperia/md/content/sen-bildung/schulorganisation/lehrplaene/gr_deu_1_6.pdf?start&ts=1157977375&file=gr_deu_1_6.pdf) 2012年1月2日アクセス。

31 Ziesenis, Werner: *Märchen*. In: Lange, Günter u.a. (Hg.): *Textarten – didaktisch. Eine Hilfe für den Literaturunterricht*. Baldmannsweiler: Schneider 1993, S. 100-105, hier 104.

32 Schieder, Brigitta: *Chancen ganzheitlicher Märchenarbeit in Kindergarten und Schule*. In: Wadertzky 1997a, S. 78-94.

33 Rora, Constanze: *“Schneewittchen” als musikalisches Spielobjekt*. In: Wadertzky 1997a, S. 269-279. その他のプロジェクト結果は以下参照。Heindrichs, Ursula: *Märchen und neuere Literatur – ein Curriculum für gymnasiale Oberstufe*. In: Wadertzky 1997b, S. 111-123. Pöge-Alder, Kathrin: *Brav und demütig oder die Verwandlung aus dem Bonbon. Zur Rezeption des Aschenputtel-Stoffs durch Jugendliche heute*. In: Schmitt, Christopf (Hg.): *Erzählkulturen im Medienwandel*. Münster: Waxmann 2008, S. 357-370. Tietz, Karl-Edwald: *“Märchen sind was für die Kleinen!” Zur Wirkung von Märchen auf*

その他、メルヒェンをどのように学校教育の現場で活用できるのか教育学専門家やゲルマニスト、メルヒェンの語り手などにより提案されている。たとえばオリバー・ガイスター（Oliver Geister）は、ドイツ語授業ならびに子どもの躰けに相応しいメルヒェンとその応用方法などを提示している³⁴。リンデ・クノッホ（Linde Knoch）は年齢別、心理セラピーなど目的に適ったグリムのメルヒェンを紹介している³⁵。ミハエル・ザー（Michael Sahr）は、KHMや現代作家により改変されたメルヒェン（*moderne Märchen*）を扱い、批判的且つ創造的なドイツ語作文力養成等できると提言している³⁶。ヘルガ・ツィツルスペルガー（Helga Zitzlspurger）は、教育学と大脳生理学の理論に基づきメルヒェン教育の意義を説き、その有効利用法を提唱している³⁷。メルヒェンのパロディーを作ってみたり、ゲーム感覚でメルヒェンの続きを創作させたりし、メルヒェンを使って楽しく言語運用力向上を試みる教材もある³⁸。またメルヒェンの概念について考え、メルヒェンの本質を学ぼうとする教材もレクラム文庫からギムナジウム高学年用に出版されている³⁹。

ドイツ再統一以前の1980年代から旧西ドイツでは「ドイツは移民国であるのか否か」が議論され、再統一後2005年に移民法が成立したにもかかわらず討議が続き、並行して移民統合政策が図られている。他民族ならびに他民族文化理解にメルヒェンが貢献できるとし、倫理の授業や宗教の時間に異国のメルヒェンを紹介することにより異文化に触れさせ、文化的相違点と相似点に気付かせようとする試みも行われおり、その実

Jugendliche”。 In: Wardetzky 1997a, S. 221-245.

34 ガイスター 2011年 76-118ページ参照。

35 Knoch, Linde: *Praxisbuch Märchen. Verstehen-Deuten-Umsetzen*. 4. Auflage. München: Gütersloh 2010.

36 Sahr, Michael: *Leseförderung durch Kinderliteratur. Märchen, Bilder und Kinderbücher im Unterricht der Grundschule*. Baltmannsweiler: Schneider 1998, S. 33-90.

37 Zitzlspurger, Helga: *Märchen in Erziehung und Unterricht heute. Pädagogische Zielvorstellungen und aktuelle didaktische Konzeptionen*. In: Franz 2003, S. 103-126.

38 Vgl. Spinner, Kaspar H.: *Märchendidaktik heute*. In: Wardetzky 1997a, S. 48-65.

39 Schödel, Siegfried (Hg.): *Märchen. Für die Sekundarstufe*. Stuttgart: Reclam 1992 (Universal-Bibliothek Nr. 15017).

践例をクリスティアン・パイツ（Christian Peiz）が紹介している⁴⁰。

2. ドイツ語教科書における現代伝説

初等教育や中等教育（5-6年生）のドイツ語カリキュラムには現代伝説をメルヒェンのように取り扱うように指導されていないが、なぜ現代伝説がドイツ語教科書に採用されているのだろうか。それは、おそらく伝統的伝説をドイツ語授業において現代で取り扱う重要性を、レアンダー・ペッツォルト（Leander Petzoldt）が以下のように説いたことに起因するのではないかと考える。

〔伝統的〕伝説はメルヒェンに劣らず現代の信仰観念、文化的要因、ならびに語り手の世界観を反映し、それゆえに集団的態度を知る上でまた文化的決定要素を知る上でも重要な資料である⁴¹。

1990年代に入りプレートニヒの現代伝説集がベストセラーになり、1970年代より授業で取り上げられなくなった伝説に代わる新しいテキスト種としてランゲは現代伝説に注目した⁴²。

1992年から2006年までプレートニヒの現代伝説集5冊に収録された725話の中から38の現代伝説が、様々な学習目標のもとに（ときには教材用に話が書き換えられ）本課程学校、実業中等学校、ギムナジウムの5年生から10年生までのドイツ語教科書、外国人生徒用ドイツ語補助教材、そして成人教育教科書に採用されてきた⁴³。この他レクラム文庫よ

40 ガイスター 2011年 90-94ページ参照。

41 Petzoldt, Leander (Hg.): *Arbeitstexte für den Unterricht. Deutsche Sagen. Für die Sekundarstufe*. Stuttgart: Reclam 1995 (Universal-Bibliothek; Nr. 9535), S. 5.

42 Lange, Günter (Hg.): *Arbeitstexte für den Unterricht. Moderne Sagen. Unglaubliche Geschichten. Für die Sekundarstufe*. Stuttgart: Reclam. 2003 (Universal-Bibliothek; Nr. 15052). S. 5.

43 Kaneshiro-Hauptmann, Akemi; „Das ist absolut wahr!“ – *Wahre Geschichte oder moderne Sage? – Rezeption der modernen Sagen im deutschsprachigen Raum*. Diss. Göttingen 2010 (EDiss.), S. 185-190. http://webdoc.sub.gwdg.de/diss/2010/kaneshiro_

り現代伝説をテーマにした手引書が出版されている⁴⁴。近年におけるメルヒェンのドイツ語教材としての使用法と同様、文法学習や会話・作文練習、読解力向上そして演劇作成等を目標に使用され、再話の練習や、異文化理解にも用いられていることが特徴である。その際、現代伝説が含蓄する信憑性を利用し、ある現代伝説が実際にあったハナシ⁴⁵なのかどうか議論させたり、またハナシの半分だけ教科書に載せ、その続きを考え想像力を養う練習問題に使われたりしている。

これまで教科書に採用されてきた現代伝説を見てみると、I-30「盗まれた腕時計」、I-56「分かち合ったスープ」、II-57「望まない臓器提供」といった外国人差別につながるようなハナシや、I-37「虫刺され」、I-19「道路わきの落し物」、I-43「スーパーマーケットでの寒冷ショック」といった女性に対する偏見を呼び起こすような現代伝説も教材になっていることが分かり⁴⁶、教科書検閲の際、教材テキストの適応性が必ずしも精査されているとは言い難い。この点について、このような作品を教育現場に持ち込もうとしている体制があるのか、あるいは意図的にこの点について教育的な視点から判断しない体制があるのかもしれないが、現時点では明らかになっていない⁴⁷。性差について、ベルリンならびにブランデンブルク州で2004年度から採用されているドイツ語教案には、男女それぞれの特徴を認めさせ、互いの長所を尊重し、新しいことにチャ

hauptmann/kaneshiro_hauptmann.pdf

44 Weller, Rainer (Hg.): *Arbeitstexte für den Unterricht. Kreative Spiele. Für die Sekundarstufe*. Stuttgart: Reclam 2002 (Universal-Bibliothek Nr. 15044), S. 86-89.

45 ここでの「ハナシ」とは、柳田國男が世間話を表現するときに「ハナシ」と表現したことに由来し、現代伝説研究家の池田香代子も用いているように、単に世間話を指すだけでなく、どのジャンルにも分類されていない現代に語られた話であり、また一見何の価値もないような話を指す。柳田國男『柳田國男全集9』、筑摩書房、1990年、516ページ参照。池田香代子『『現代伝説』と『世間話』』、日本昔話学会編、『現代伝説—昔話研究の可能性—』、第24号、1996年、9-11ページ参照。

46 金城ハウプトマン朱美「ドイツ語圏における現代伝説の男と女について」、日本昔話学会編『昔話 研究と資料』、第39号、2011年、88-99ページ参照。

47 宇佐美幸彦教授よりご教示して頂いた。

レンジさせるような試みや、男女が平等に学べる教材を使用することなど明記されている⁴⁸。しかしながら表現が抽象的で具体的な教材名は挙げられていないし、男女の特徴とは何かにも触れていない。

さて、プレートニヒの現代伝説集の中から168話が選取され12歳以上の読者対象に『獣医にかかった金魚——現代における伝説風のハナシ』（*Der Goldfisch beim Tierarzt und andere sagenhafte Geschichten von heute*）が1997年にベルテルスマン（Bertelsmann）出版から刊行された。性的なハナシが青少年の読み物とされていることが問題視され槍玉にあげられ、テレビ番組で父兄からの苦情が取り上げられたため、出版社はやむおえずこの凶書を書店から回収した。話の選択の際には出版社のみが関与していたと拙者はプレートニヒから直接聞いているが、プレートニヒは「印刷ミスだった」と釈明するという事態に陥った⁴⁹。そして1999年には同出版社が問題のハナシ34話を削除して、新たなタイトル『流行っているハナシ——現代における伝説風のハナシ』（*Der Dauerbrenner. Sagenhafte Geschichten von heute*）で青少年向けの現代伝説集が出版されたが、注目されず現在は絶版となっている。問題視された現代伝説の一つにI-7「車のドアに挟まった指」が挙げられるが、2001年と2005年に発行されたドイツ語教科書⁵⁰に採用されていることから、教材検閲が徹底して行われていないことをここでも示唆している。

現代伝説もメルヒェン同様、その教育的効果を実証しがたいのであるが、現代伝説を教師が授業中に語ったり読み聞かせたりして得た生徒の感想は、プレートニヒ宛の投書にしたためられ、必ずしも肯定的な記述

48 Vgl. Ministerium für Bildung, Jugend und Sport des Landes Brandenburg / Senatsverwaltung für Bildung, Jugend und Sport Berlin / Senator für Bildung und Wissenschaft Bremen / Ministerium für Bildung, Wissenschaft und Kultur Mecklenburg-Vorpommern (Hg.): Rahmenlehrplan Grundschule Deutsch. Berlin: Wissenschaft und Technik 2004, S.11.

49 金城 2010年 204-207ページ参照。

50 Pfaff, Harald / Weingarten, Rüdiger (Hg): *Deutsch. de A6*. München: Oldenbourg 2001, S. 188 und 199. Heinz, Hans J. / Krull, Renate / Ninnemann, Ekhard (Hg.): *Doppel-Klick 7. Das Sprach- und Lesebuch*. Nordrhein-Westfalen. Berlin: Cornelsen 2005, S. 112-115.

ばかりではなかった。「教師から聞いた現代伝説を本当のハナシだと信じていたのに、プレートニヒの現代伝説集で読んだので、その教師が信じられなくなってしまった」とか、反対に「〇〇先生が語っていたので本当のハナシで、現代伝説ではない」という意見もあり、ここでは現代伝説の信憑性と語り手への信頼が問題になっていた⁵¹。これらの発言は、一般読者と研究者の間に「現代伝説」に対する見解にずれがあることに起因すると考える。

3. おわりに

本稿で、グリムのメルヒェンも現代伝説もそれぞれの特徴を生かして教材として活用されていることが明らかになったであろう。しかし先にも述べたように、これらの民間伝承が各学習者の学力だけではなく、人格形成にや将来に与える影響については実証しがたい。それでも民間伝承を用いた教育が現代でも実践されている背景には、民間伝承が様々なメディアにおいて形を変容しながらも国民の生活に根付いているという事実があり、そのため授業で取り扱いやすいと考えられる。メディアの影響は看過できない。

フィッシャーは、メルヒェンが絶え間なく再生産されているのは、グリムのメルヒェンの人気が根強く、19世紀の半ばからは継承遺産として生き続けているためだとし、そのため今後もメルヒェンの時代に終焉は訪れないだろうと主張している⁵²。レギーナ・ベンディックス (Regina Bendix) は、テレビクイズ番組 (Wer wird Millionär? など) においてメルヒェン関連の問題が出題されることから、特定のグリムのメルヒェンは一般常識化されているとみなし、さらにメルヒェンは文化資産になっていると指摘している⁵³。一度文化資産になったものは近い将来に容易

51 金城 2010年 167-171ページ参照。

52 フィッシャー 1997年 112ページ参照。

53 Vgl. Bendix, Regina: *Vom Witz zur Quizshow. Das abgekürzte Märchen als (bisweilen auch kulturelles) Kapital*. In: Bendix, Regina / Marzolph, Ulrich (Hg.): *Hören, Lesen, Sehen, Spüren. Märchenrezeption im europäischen Vergleich*. Baltmannsweiler: Schneider

に忘れ去られることはないであろうし、ましてや KHM はユネスコ世界記憶遺産に登録されていることを考慮に入れると、保護されながら後世に伝えられてくのはユネスコが存在する限り確実であろう。

一方、現代伝説の場合、オーストリアではすでに現代伝説など民間伝承を蒐集公開しているインターネットサイト“SAGEN.at”(www.sagen.at)がオーストリアデジタル遺産(Digital Heritage in Austria)に登録され保護されている。ドイツでは、ドイツ語書籍、研究論文ならびにその翻訳を収集保管しているドイツ国立図書館(Deutsche Nationalbibliothek)が、2006年10月にインターネット出版物やチャット、フォーラムの書き込み、さらにインターネットサイトをユネスコ無形文化遺産条約に基づき文化遺産とみなし、それらの保存を決定した⁵⁴。拡大解釈にはなるが、フォーラムに書き込まれた現代伝説も文化遺産という称号を得ることが可能なのである。

あらゆる分野で今後、無数の文化遺産が誕生していくことが予想されるが、それらが学校教育にどのような影響を与えていくのかまだ議論されていないようである。文化遺産だからこそ学ぶ価値があるのであろうか。一種のブランドのようなレーベルがかつての民間伝承に与えられ、民間伝承が高尚文化の一つに数えられなければ、今後後世に伝えられる価値がないのであろうか、と様々な問題が矢継ぎ早に浮かび上がってくる。メルヒェンや伝統的伝説そして神話が「昔の人々が語り継いで来たものであり文化が構成される一部」として単純に理解され、あるいはそのような理由抜きに子どもが楽しく読める読み物として単に読み継がれ、後世まで継承されるためには、ナチス時代に得たその負のイメージが未だに至大なのであろう。そのためこれらの民間伝承に対する教育的価値の意味づけも未だに容易にできないと推測する。

メルヒェンを使って異文化理解、さらに統合政策もベルリンで推進さ

2008 (Schriftenreihe Ringvorlesungen der Märchen-Stiftung Walter Kahn: Bd. 8), S. 234-237.

54 Löbbert, Raoul: *Speichern unter: Kulturerbe. Jeder Chat ein Dokument: Wie die Deutsche Nationalbibliothek das deutschsprachige Internet archivieren will.* In: *Frankfurter Allgemeine Zeitung Sonntagszeitung*, 19. Oktober 2006, S. 33.

れようとしているが⁵⁵、この際、幼少期にメルヒェンに触れていることが前提になる。現代の子どもたちは、グリムの KHM の決定稿のメルヒェンではなく、テレビアニメ「ジムザラ・グリム」(Simsala Grimm) やディズニーを初めとする種々のメルヒェン映画で視覚化されたメルヒェンを見て育ってきた。だからこそ異国のメルヒェンを受け入れる素地があるかもしれないし、逆に拒否してしまうかもしれない。州ごとに教案が作成され実践されているのがドイツの学校教育の特徴ではあるが、メルヒェンを学校教育で活用させようとするのであれば、今後は幼稚園等における就学前教育の一層の強化と学校教育との連携が急務であろう。

近年ドイツでもモラルの低下が嘆かれているが、道徳教育に現代伝説を利用するのが有益だと考える。ユリア・ノアック (Julia Noack) によると、プレートニヒの現代伝説は共同財産であり、そこでは道徳違反が語られ、常識 (common sense) とは何か判断できる話、I-19 「道路わきの掘り出し物」や I-23 「恐ろしい過ち」など19話あると論述している⁵⁶。現代伝説を初等教育の社会教育授業 (Sachkunde) や各種学校のオリエンテーリング段階 (5、6年生) の生徒を対称に、早い時期に授業に現代伝説を取り入れてモラル指導の教材として使用することを提案したい。

参考文献

- Franke, Claudia: *Der Weg ist das Ziel: Moderne Sagen entwickeln und schreiben*. In: *Deutschunterricht* 60 (2007) Heft 1, S. 36-42.
- Franz, Kurt / Kahn, Walter (Hg.): *Märchen-Kinder-Medien. Beiträge zur medialen Adaption von Märchen und zum didaktischen Umgang*. Baltmannsweiler: Schneider. 2000 (Schriftenreihe der Deutschen Akademie für Kinder- und Jugendliteratur: Band. 25).
- Franz, Kurt (Hg.): *Märchenwelten. Das Volksmärchen aus der Sicht verschiedener Fachdisziplinen*. 2., ergänzte Auflage. Baltmannsweiler: Schneider 2003

55 Vgl. Senatsverwaltung für Bildung, Wissenschaft und Forschung (Hg.): *Information zur Arbeitsgebiet Interkulturelle Bildung und Erziehung*. Nr. 5. Berlin 2008, S. 6.

56 Vgl. Noack, Julia: *Common Dilemma. Objektivierungen und Entwicklungstendenzen bei der Nutzung von Gemeinschaftsgütern aufgezeigt im Bereich der Europäischen Ethnologie*. Diss. Freiburg. Freiburg im Breisgau: Wissenschaft & Öffentlichkeit 2003, hier S. 208-226.

- (Schriftenreihe Ringvorlesungen der Märchen-Stiftung Walter Kahn: Bd. 1).
Wardetzky, Kristin / Zitzlperger, Helga (Hg.): *Märchen in Erziehung und Unterricht heute*.
Bd. 1. Beiträge zu Bildung und Lehre. Baltmannsweiler: Schneider 1997a.
Wardetzky, Kristin / Zitzlperger, Helga (Hg.): *Märchen in Erziehung und Unterricht heute*.
Bd. 2. Didaktische Perspektive. Baltmannsweiler: Schneider 1997b.

付録「現代伝説について」

現代伝説とは日本では耳慣れない言葉であり、「都市伝説」という言葉の方が一般的に広まっているが、拙者が扱うドイツの「現代伝説」と日本語で言う「都市伝説」は同一ジャンルではない⁵⁷。

現代伝説と呼ばれる話は一般に英語圏で“FOAF”(Friend of a Friend)-Tale と呼ばれているように、基本的に語り手は友人や知人などで、その人の友人知人など第三者に実際に起こった話である。様々な現代技術に支えられた今日の生活の中での出来事が語られ、時には間接的に現代技術やマスメディアを通じて、迅速かつ広範囲に流布されるのが特徴である。現代伝説の話の内容自体は、嘘のように聞こえるのだが、個々の話の核心には「真実のかげら」が隠されており、現実味を帯びた信憑性のある「本当にあった嘘みたいな話」に仕上がっている。ここで「仕上がっている」と言う表現を用いたのは、話が頻繁に語られる過程で、話者自らのフィルターにかけられるため、不必要と判断された箇所は削除され、または加工されて語られるからである。再話を重ねるごとに娯楽性の高い話へと変化していく。また、現代伝説には、人々の持つ不安や恐れ、望みや希望、偏見などが投影されているため、時代を映し出す

57 「都市伝説」という言葉は、アメリカの民俗学者ヤン・ハロルド・ブルンヴァンの現代伝説集の邦訳タイトル『消えたヒッチハイカー アメリカの都市伝説』(The Vanishing Hitchhiker. American Urban Legends & Their , 1981) に用いられたのが最初とされ、これは Urban Legends の直訳であった。1992年に池田香代子らによりドイツの現代伝説集が翻訳されているが、ここでは *sagenhafte Geschichten von heute* を「ヨーロッパの現代伝説」と訳され「世間話」とは訳されなかった。池田香代子 1996年、8-11ページ参照。

鏡のような機能もある。そのため、人々に警戒心を抱かせたり示唆的なメッセージを与えたりするという特徴を持つ⁵⁸。例えば、エイズ感染の恐怖が語られている I-33「エイズ・クラブへようこそ」⁵⁹、子どもが行方不明になる V-120「私の娘はどこ？」や外国旅行中に行方不明になり発見されたときには腎臓が盗まれていたハナシ II-57「望まない臓器提供」、III-24「さまよう腎臓」が挙げられる。これらのハナシは最初に語られてから20年以上経過し書承化されているにもかかわらず、未だに最近あった話として語られたり、新聞記事になることもある。このように口承と書承を繰り返すことが現代伝説の特徴である。

現代伝説の成立が古いと考えられるハナシもいくつかあり、II-16「消えたヒッチハイカー」がその例である。車に乗せた女性が目的地に到着する前にいつの間にか消えてしまう。この種のハナシは欧米や日本でも流布しており、アメリカのリチャード・K・ベアズリー (Richard K. Beardsley) とローザリー・ヘンキー (Rosalie Hankey) が最初にこのハナシの出所を調査している⁶⁰。伝統的伝説 (traditionelle Sage) とは、現代伝説と区別するために使われる表現であり、史実に基づく話でもあり以下のように三分類が可能である。1. 鬼神伝説 (dämonologische Sage) あるいは迷信的伝説 (abergläubische Sage: 小人や巨人、悪魔といった超自然的存在が登場する話)、2. 歴史的伝説 (historische Sage: 登場人物が歴史上存在した人物や出来事でそれにまつわる話)、3. 原因伝説 (äthiologische Sage: 現象・習俗・名称などの由来を説明する話)。

伝統的伝説と現代伝説の連続性について、以下のハナシの類似性から説明できる。「蒸気機関車の乗客が駅で停車するごとに一人消えていて、それは悪魔の仕業だ」と語られているアウグスト・シュテーバー (August Stöber) が蒐集した19世紀のアルザス地方の伝説と⁶¹「ユーロ・ディズニー

58 金城 2010年 9-10ページ参照。

59 ローマ数字は巻数を、漢数字は話の番号を表す。

60 Beardsley, Richard K. / Hankey, Rosalie: The Vanishing Hitchhiker. In: California Folklore Quarterly (1943), S. 13-25.

61 Stöber, August: Die Sagen des Elsasses, zum ersten Male getreu nach der Volksüberlieferung, den Chroniken und andern gedruckten und handschriftlichen Quellen, gesammelt und erläutert von August Stöber. St. Gallen: Scheitlin & Zollikofer 1852, S. 447

ランドの乗り物に乗った子どもが消えた」というブレートニヒの現代伝説 III-27「二度と会えない」では、共にその時代ではまだ珍しい乗り物の乗客が消えることについて語られている。このことから、拙者は現代伝説は新しいジャンルではなく、伝説になる前のまだ年数の若い話だと解釈し、後世においてその類話が語られている場合、かつての現代伝説が伝統的伝説になったと考える⁶²。

62 金城 2010年 24ページ。